

1. ダッカで8階建てビル倒壊、死者300人を越える → 暴動に発展するも、現在終息

① 4/24午前9時ごろ、首都ダッカの郊外サバールにある8階建てのビル倒壊

4/24午前9時ごろ、首都ダッカの郊外サバールにある5つの衣料工場が入っていた8階建ての商業ビルが倒壊、100人以上の人々が死亡し、数百人が負傷した。消防隊、軍隊そしてバングラデシュ国境警備隊(BGB)が、共同で瓦礫の中に閉じこめられた人々の救助を行っている。救助隊や地元の人々によると多くの人々がラナプラザの瓦礫に閉じ込められたままになる可能性があるため、死者の合計はもっと増えるであろうと思われる。救助隊は地元のボランティアと一緒にドリルやクレーンを使って倒壊したビルの下の生存者を探している。閉じ込められたアパレル労働者が救出を求めて叫んでいるのが見られ、救助隊が穴から水や食べ物を供給した。病院やクリニックの医師や看護婦は限界の中で増え続ける負傷者への対応に苦慮している。ラナプラザのオーナー・ソエル・ラナも瓦礫の中に約2時間閉じ込められ、救出されたあと隠れ家の中に隠れていた。バングラデシュ衣料メーカー及び輸出協会(BGMEA)によると、高層ビルが倒壊したとき、その建物の中の5つの工場の中に約2,638人の労働者がいた。875人が4階、495人が5階、478人が6階、340人が7階、450人が8階にいた。このビルでビジネスしていたのはファントムアパレルリミテッド、ファントム・テク、ニューウェーブ・スタイル・リミテッドそしてエタール・テックスであった。

② ビルは積み木崩しのように砕けていった

それは午前8時45分。明るくまぶしい朝だった。サバールにある8階建てのラナプラザは活気にみなぎっていた。ミシンは音を立てアイロンは蒸気を上げていた。前日、大きくなっていった建物のひび割れには誰も気にこめていなかった。実際、そこで働いていた2,000人の人々はあわただしい仕事の中でそのことをすっかり忘れていたのだ。ミシンヘルパーのラクシミ・サルカールは3階の柱のすぐそばでミシンをかけていた。急に彼女はまるで床が生きているかのように傾いていくのを感じた。まず彼女の頭を横切ったのが建物に広がっていたひび割れのことだった。ラクシミは飛び上がった。階段に向かって走っているとき轟く音を聞いた。柱や梁が倒れてくるのが見えた。多くの人々と一緒に彼女は建物の中に閉じ込められてしまった。数時間後、救助隊が閉じ込められた労働者を引き出し始めた。800人の人々は生きたまま救出された。ジャマ・ベゴムはラナプラザの向かい側にある衣料工場の窓の外を見ていた。突然、彼女は大きな音を聞いた。彼女は自分の目が信じられなかった。プラザが積み木のように砕け落ちるのを見たのだ。数秒のうちに8階の建物は土煙を上げながらゆっくりと瓦礫の山と化していった。プラザの一部は少なくとも16人が閉じ込められた隣の3階建ての建物のほうに傾いていった。ジャマはそこで働いていた人々の運命を考えると震えがきた。災害の後のそこには数千人の人だけだかりができた。愛する人をどこで探せばいいのかわからず多くの人々は涙を流していた。軍隊も消防隊も救助活動を行うのは困難であることがわかった。数千人のボランティアたちは救急車のために必死になって道をあけていた。この不運な建物は、建築を許可する都市開発局(ラジク)の許可を受けていなかった。不法構造の柱はそれぞれ細い金属棒が9本しか使われていなかった。

③ 4/25、労働者たちがBGMEAの工場を包囲、道路を占拠

4/25、ラナプラザ惨事で、多くの人々の生命が奪われたことに激怒した何千、何万というアパレル労働者たちが、責任者たちの極刑を求め、さまざまな工場から道に繰り出し、5つのハイウエーをブロックし、すべての工場の生産停止を求めた。荒れ狂った抗議者たちは投石し、操業中の既製服(RMG)工場の窓ガラスを割ったり、数多くの車を破壊した。労働者たちが暴動を起こしたので、アシュリア工業ベルト地帯にある何百という衣料工場が、すべて操業を停止した。一部は暴徒化したため、警官隊は催涙ガスで沈静化を図った。

④ バングラデシュ政府、4/26/27、全国一斉休業を指示

4/25夕、バングラデシュ政府は、ラナプラザビル倒壊事故の死者を弔うために、4/26・27の両日を全国一斉休業にし、喪に服するようにとの声明を発表した。同時にバングラデシュ衣料メーカー及び輸出協会(BGMEA)も、傘下の会社に両日の休業を指示した。

⑤ 死者305人、72人救出

4/25午後10:30の報告では、ビル倒壊の死者の合計は305人、そして72人の生存者が救出された。シーク・ハシナ首相はラナプラザのオーナーと入居していた衣料工場のオーナーを逮捕するように命令した。何百というボランティ

アと軍隊と消防隊が 60 時間たった今も、倒壊した工場の瓦礫の下に閉じ込められている人々の救出に当たっている。愛する人が瓦礫の下から生きてままだ助け出される可能性が薄くなっていく中、数百人の家族や親戚が、倒壊した建物を囲んで心配しながら待っている。しかし、更に倒壊を促し、閉じ込められた人々の更なる生命を脅かす危険を恐れ、重機を使うことができず、救助は限界時間を越えてしまった。「4/24午前9時ごろ事故が起きてから 26午後8時までに合計2,348人が倒壊したビルの中から生きてままだ救出された」とインテル・サービス広報(ISPR)の理事シャビドゥール・イスラムは言った。それから305人の遺体のうち約281人の遺体が家族に引き渡されたとカンは言った。記者会見で、救助隊はもっと生存者を救出できると希望を持ち、まだ重機を使っていないと言った。

## ⑥ サバールの悲劇、RMGに不利なインパクト、業界リーダーの恐れ

「最悪のサバールの惨事は、国内の既製服(RMG)業界に対し新たに不利なインパクトを与えている」と業界内部関係者や専門家たちは警告している。4/24に起きた高層ビルの倒壊は、300人以上の死者、数百人に上るけが人を出し、世界中のメディアの注目するところとなっている。

政策ダイアログセンターの常任理事モスタフィズール・ラハマンは、「死者のほとんどは衣料労働者であった。昨年末の112人の死者を出したタズリーン工場火災のあと、RMG産業はコンプライアンスや安全対策などについて、さまざまな圧力にさらされていた。その最中に、今回のビル倒壊事故が起きた。バングラデシュ衣料労働者の安全はますます国際的に注目されるにちがいない。アパレル産業に大きな逆風となるだろう。GSPについて、アメリカ合衆国取引代表団(USTR)の聴聞と労働者関係の質問が始まったばかりのタイミングで、この事故が起きた。アメリカの市場で一般特惠制度原産地証明書(GSP)機能を失う危機に直面している」と語った。

## ⑦ 不法に高層化

サバールで倒壊した8階建てのビルは、都市開発局(ラジュク)からの許可をもらっていなかった。監視のない状態でこのビルは5年間にわたって、上へ上へと建て増しされていった。ラナプラザはアワミ連盟のMd.ソヘル・ラナが所有していた。地元の人々はその地域で力を持っている若い政治家に屈服して、ビルの建設に反対する勇気がなかった。サバールの自治体役員は、ビルの設計図を2008年に提出され、それを許可したと語っている。自治体にはビルの設計図を許可するために、二人のエンジニアから構成される小規模団体があり、地元サバールの住宅所有者たちはほとんどがこの団体から許可をもらっていた。手続きはとても簡単で金を使えばとてもスピーディーなものであった。ラジュクの会長は「このエリアにはビルの建設を許可する権限を持っている地方自治体はなかった。義務ではあったが、ラナプラザのオーナーはラジュクの許可を得ていなかった。サバール、ナラヤンゴンジ、そしてガジプールのような地方自治体の中にはラジュクは事務所を持っていなかった。だからわれわれは何の手段もとることができなかった」と話した。ラジュクは昨日、3人のメンバーからなる委員会を作り、この腐敗の背景の理由を探し出すことにした。ラジュク理事のゴラム・モストファを長とするこの委員会は、7日以内にレポートを提出するように言われている。

## 《 私見 》

昨年末のタズリーン火災の惨事に引き続き起きた今回のビル崩壊事故はバングラデシュの衣料縫製産業の実情を浮き彫りにしている。バングラデシュは世界第2位の縫製大国と言われているが、その中には短期的に利益を追求する地元業者も多く、彼らの安全管理を無視した工場経営が今回の惨事を引き起こしたと言える。昨年末の火災発生後、政府とバングラデシュ衣料メーカー及び輸出協会(BGMEA)は、安全管理に注力し、工場の監査を徹底して行っていた。わが社もただちに火災避難訓練を実施し、不適當な箇所を改善した。今後は、建築基準を含め、さらなる安全管理を徹底することが必要である。政府も監視を強めるべきである。当然のことながら、欧米バイヤーからのコンプライアンス遵守の要求も強化されるだろう。

今回のビル倒壊事故に発した労働者の暴動は、ビルのオーナーや経営者に対する怒りと、劣悪な労働環境に対する日ごろの不満が重なって爆発したものと思われる。しかしその背後には、ハルタル同様の動きがあることも否定できない。またバングラデシュ人特有の「鬱憤晴らし」のような行動であることも考えられる。経営者は、労働者がそのような行動に訴えなくてもよいような労働環境と労働条件を整え、安全管理を徹底するべきである。

わが社は、バングラデシュにおいて、あらゆる面で模範企業になるように努力をする覚悟である。



《わが社の屋上から見た抗議の様子》

## 2. デンマークの政府役人、バングラデシュ縫製工場を評価

ガジプールのカシムプールにある衣料工場の GMS 合成ニット・インダストリー・リミテッドを訪問したデンマーク開発機構大臣クリスチャン・プリス・バッハは、「仕事の条件は良い。空間も多く明るさも良好である。まだたくさん土地がある」と発言した。昨年 11 月に、112 人の死者を出した産業界最悪のタズリーン・ファッションの惨事の 4 ヶ月後に彼は訪問した。惨事は火災安全や衣料工場の労働条件に疑問符を投げかけていたが、彼は工場内の排水処理プラントと水処置プラントのスムーズな作業を見て喜んだ。

GMS は 2001 年 1 月 2.5 トンのニット生産からスタートし、現在では 1 日 45 トン、135,000 枚のアパレル製品を生産している。GMS の専務取締役 Md.ゴラム・モスタファは、「この工場はベストセラー(65%)、レックスアンドホーム(5%)のようなデンマークのバイヤーの製品を作っている。残りの 30%はほかのヨーロッパの国々の取引先に輸出されている。会社の年間取引額は 1 億 5 千万ドルに上り、12,000 人を雇用している」と話している。GMS はバングラデシュで最大のニットの混合工場であり、専務取締役は、「2009-10 年に最高の輸出をして全国輸出トロフィーを商務省から受賞した。より良い労働条件を提供するために会社は全てのタイプの設備を準備し、消火設備システムも十分整備され、デイケアや専任の医師もいる」と語っている。

## 3. 既製服衣料産業界、政治的混乱を憂慮

輸出向けの既製服衣料産業界は、現在の政治的混乱が、バングラデシュ経済に大きなマイナスの影響を与えると懸念している。バングラデシュ衣料メーカー及び輸出協会(BGMEA)とバングラデシュ・ニットウエアメーカー及び輸出協会は共同で、「度重なる騒動と物流の混乱は経済成長を妨げ、輸出を制限し、投資意欲を妨げる。すでにおよそ 5 億ドル相当の輸出注文がバングラデシュの政治混乱のために、他国に流れていった。レギュラーバイヤーの多くはハルタルのために、この夏注文を取るために欧米各国に代表を送ることに気が進まない。ロシアのバイヤーのチームは先週の水・木曜日間のストライキの間、ダッカのシャジャール国際航空から引き返してしまった。その上、外国人バイヤーたちは納期遅れのため、船積み分をキャンセルすると脅かしている。輸出業者は遅れた分を納期に間に合わせるために、高い飛行機代を使わなくてはならない。衣料部門が背負った損害は数え切れないほどの衣料労働者の生活を脅かしている。そうなれば今の経済状態がさらに悪化する」と語っている。

## 4. BGMEA、労働者保護のための手帳作成

バングラデシュ衣料メーカー及び輸出協会(BGMEA)は、アパレル労働者たちの詳しい身上を文書化した「サービスブック(手帳)」を、そのメンバーたちに 3 週間以内に作成するように指示した。これにより BGMEA は、中央から労働者の活動をモニターすることができるようになる。期限内にサービスブックの作成ができない工場には、協会はその後のサービスを停止するとしている。BGMEA 会長アティクール・イスラムは、「このことに関してメンバーには既に書面で知らせてある。ブックには労働者の家族構成を含め身分証明に関する情報が記載され、その他、就職日、退職日やその理由を書き込むようになっている。労働者の賃金、家賃、ボーナス、準備基金など、また退職時の労働者のポジション、仕事中の態度に関しても記録を取るようになっていく」と話している。

BGMEA によると、「それぞれの労働者に身分証明書番号が与えられ、全ての労働者の情報を記録することができるソフトウェアが近い将来開発されることになっている。全ての労働者に身分証明書類が用意され、サービスブックは労働者がその雇用主と賃金を含め法的な権利について交渉するのに役立つはずだ。アパレル工場はアシュリア、ミルプール、そしてガジプールを含めデータベースのために 8 つのゾーンに分けられることになっており、地元地域別のサーバーに情報が蓄積される。地元のサーバーの下に工場が 50 になったとき、それは中央に移管され BGMEA のデータベースに蓄積されることになっている。協会は既にこの件に関してふたつの地元の会社と提携を結んでいる。中央一箇所の集中データで作れば 2 万タカでできるが、独自のデータベースを構築したければ、2 百万タカ必要である」という。

## 5. チッタゴンの衣料輸出業、地盤沈下

チッタゴンの衣料輸出業者たちは国内の総合アパレル輸出に対する貢献が 10%以下に滑り落ち、これを心配し早急に手を打つことを呼びかけた。1991-92 のバングラデシュからの衣料輸出の合計は 15 億ドルに達し、チッタゴンの貢献は 5 億ドル相当であった。これは国内第 3 位であった。しかし、20 年の間にそれが 22.6%にまで落ち込んだ。2011-12 年にはチッタゴンは国内輸出合計額 198 億 9 千万ドルのうち 45 億ドルであったと公式数字を引用し輸出業者は語った。

チッタゴンの衣料輸出業者は、「衣料工場はインフラが整備されたダッカ郊外のアシュリア、ガジプール、サバルのようなところに計画に基づいて移動されるべきであるといっている輸出業者もいる。交通が不便なため、海外のバイヤーたちはチッタゴンにいくよりもダッカに滞在することが多い。チッタゴンにも外国投資家をひきつけるような近代的なホテ

ルが必要で、当局もこれを早急に見直すことが必要である」と、語っている。

## 6. チッタゴンの既製服(RMG)メーカー、停電で打撃

チッタゴンの既製服(RMG)メーカーは、「1日4時間から5時間の停電のため打撃を受けている。バイヤーへの納期に間に合わせるために、工場主が自家発電をさせ工場を動かさず、工場での生産経費は様々な面で上昇している。港町での衣料産業は電気不足の最悪の被害者になっている」と語っている。BGMEAはこの地域での既製服産業への電気の供給が十分でないことに大きな関心を示している。バングラデシュ衣料メーカー及び輸出協会(BGMEA)は、「外国のバイヤーは工場を動かすためにそれぞれの発電機のために余分な燃料費を支払うのは快く思っていない」と言った。この部門は国の経済、雇用、バンキング、保険部門、交通、荷造り産業界でも重要な役割をしており、リーダーたちはRMG産業界に電気供給を強化する早急に手段を取ることを要求している。

## 7. 政治混乱にもかかわらず、衣料輸出10%以上の伸び

衣料輸出の成長のおかげで、現在続いている政治混乱にもかかわらず、現在の会計年度(2012-13)上3期には10.16%の成長を見せ、国内の商品荷積みは勢いを得ている。輸出業者と政府関係者は、主な輸出先の経済崩壊や電気不足、高い銀行利子を含め全体的な状況を考えて、この成長は満足できるものであるとした。輸出で受領した総額は現在の会計年度7月から3月の間197億ドルで昨年度(2012-13)の同じ時期の178億86百万ドルよりも上昇した。1ヶ月だけの収入も2013年3月には2012年の3月に比べると16.20%成長し、19億82百万ドルになった。

政府関係者とアパレルメーカーは、一貫した成長の要因は新市場への輸出と見ている。「日本、中国、インド、ロシア、オーストラリアそして南アメリカへの輸出が伸びた」とバングラデシュ・ニットウエアメーカー及び輸出協会(BKMEA)の副会長Md.ハテムは語った。ニットウエア産業は75億8千万ドルを獲得し、昨年同期に比べると8.44%の成長を見せた。一方織物産業は80億9千万ドルと発表し、これも13.81%の伸びを見せている。度重なるストライキや政治的暴動だけでなく世界的な不況にも変わらず、10.16%の成長は十分満足できるものだと政府関係者もビジネス企業家も語っている。なお今年度の最初の8ヶ月の間ジュートやジュート製品からの収益は7億6542万ドルであり、昨年度の同じ時期に比べると7.72%の成長を記録した。

## 8. BGMEA 会長、政府に政治混乱の早期收拾を要請

BGMEA 会長 Md.アティクール・イスラムは、「既製服(RMG)のバイヤーたちはその意思があっても RMG 輸出に悪い印象を与えた政治混乱のためにバングラデシュを訪問する勇気を失ってしまった。もういい加減にこの状況から抜け出させてほしい。バイヤーはバングラデシュに来なくなってしまった。彼らは政治不安定のため訪問を控えるようにいわれているのだ。バイヤーたちを迎えに行くので飛行場で待つように頼んでいるが、その後何が起きるかわからないのでバイヤーたちはそれに同意しない」と、事務局で労働雇用大臣ラジウッディン・アハメド・ラジュとの会議の後で、ジャーナリストに語った。さらに BGMEA 会長は、「政界のリーダーたちに国家産業を助け、経済を活性化させ続けるために、早急に対話してほしい。もし政府が良好な環境を保証すれば500億ドルに相当する輸出をすることができる」と言っている。

BGMEA リーダーたちは、「輸出業者は1月2月だけのストライキのために航空便を使い250億の追加損失を計算しなくてはならない。度重なるストライキのためにこれまで15の工場の2200万ドルに相当する輸出の注文がキャンセルになり、海路による船積みの780万ドルの商品がストライキのために期限に間に合うかどうかわからなくなっている。輸出業者は171万ドルに相当する航空運賃を負担しなくてはならないのに、もし(ストのために)納期が遅れたら70万ドルの値引きを要求してきている」とも語った。

## 9. 中央銀行、L/C 融資再開に動く

バングラデシュ銀行総裁アティウール・ラハマンは、インランドビル買取(IBP)の論争を解決させるために、衣料メーカーが委員会を形成することを承認した。衣料メーカーが引き起こした詐欺事件の後、ビジネスに融資することを多くの銀行が容認しないので、総裁が保証したのである。しかし、中央銀行はその委員会がいつ形成されるかはいっていない。IBPは輸出のために地元の市場から商品とサービスを購入し、そのクライアントに対する保証をするための与信枠である。銀行監督官がL/C融資の不祥事を発見したことで、中央銀行は去年の7月にIBPを受け入れる銀行の権限をカットしてしまった。詐欺事件が、昨年明るみになってから、衣料メーカーは中央銀行にIBP受入条件を緩和するように説得してきた。

## 10. 日本の ODA 援助

日本国際協力事業団(JICA)のバングラデシュ主任代表戸田隆夫氏は、「日本の民間投資家たちは、特に製造部門で

バングラデシュに新しい企業を立ち上げようと、投資意欲が増している。政府開発援助(ODA)を受ける努力と共に、彼はバングラデシュの政策立案者たちがもっと積極的に外国直接投資(FID)を追求すれば、大きな雇用を生み出す可能性がある」と話した。さらに戸田氏は、「日本は農村開発から年巨大インフラプロジェクトまで、様々な部門を援助しながらバングラデシュと友好関係を結び40周年を迎える。公約の一環として、JICAは4つのインフラプロジェクトのために最高額956億83百万円(10億3千万ドル相当)のODA融資に署名している。融資の条件は10年の余裕期間で40年の返済期間、年間利率0.01%という寛大なものである。過去4年の間、日本はバングラデシュに対しての援助公約を著しく拡大している。今年度だけでも日本は技術的にも草の根的支援にも18億ドルを準備する公約をした。日本の技術協力はパワー、エネルギー、交通、水、廃棄物管理、地方政治、農村インフラ、特に母子の健康、伝染病、初等教育、災害管理、気候変化のような様々な部門で、大きな財政援助と組み合わされている」と語った。

#### 11. EPZ内土地不足と政治混乱が、海外企業誘致にマイナス

バングラデシュ輸出加工地区当局(BEPZA)は、土地不足のために海外投資の申し込みを数多く断った。関係筋の情報によると、輸出加工地区(EPZ)に十分なプロットがないため、この7月から2月の間BEPZAは1億4250万ドルの相当の申し込みを受けることができなかった。様々なEPZでの投資実行可能性の研究を8ヶ月間続けた後、海外投資家たちは申し込みに来たのであった。これらの会社は、中国、インド、パキスタン、マレーシア、香港、韓国そしてスリランカなどの各国から来ている。中国の会社を含めてほとんどの投資家たちは、チッタゴンEPZ、ダッカEPZ、コミッタEPZそしてアダムジールEPZなどに、入ることを希望している。

大切な海外投資家たちに現在の政治混乱はマイナスのインパクトを与えている。つい最近、韓国の巨大電気会社サムソンが3月バングラデシュの様々なEPZを訪れることにしていたが、政治混乱のためにキャンセルした。BEPZA関係者によるとサムソンが予定していた訪問をキャンセルしたことが、バングラデシュの将来の投資に黒雲を投げかける可能性があるのではないかと恐れられている。

#### 12. ハシナ首相、中国大使に支援を要請

シーク・ハシナ首相は、中国・バングラデシュ二国間のトレードギャップを少なくするために、「バングラデシュは織物、農業加工、エネルギーと電気、薬品、コミュニケーション及びインフラ開発の投資を歓迎する。これは二国間のトレードギャップを縮めることになるであろう」と、首相の事務所に中国大使リ・ジュンが訪問したときに述べた。またハシナ首相は、中国の投資家の熱心さを歓迎し、政府は必要な協力を拡大することを保証した。そして中国大使に、「中国や香港を訪れようとしているバングラデシュのビジネスマンに、ビザの手続きをもっと緩和するよう」に求めた。中国大使は、今年6月に昆明(クンミン)で開かれる第1回中国-南アジアエキスポに、ハシナ首相を招待した。ハシナ首相は中国の援助でできた数々の橋の建設に感謝し、政府の「ビジョン2012」への更なる支援を中国政府に求めた。

#### 13. 海外送金受領額、順調に増加

バングラデシュ銀行は、3月度、前月比5.23%増の海外送金:12億2千万ドル以上を受け取ったと発表。なお前年同月比は11%増。内部送金の最新の数字はバングラデシュの送金の合計は今年度最初の9ヶ月間で111億1千万ドルに上った。2010年度-11年度の116億5千万ドルから2011年-12年度には128億4千万ドルに上った。中央銀行はバンキングチャンネルを使って送金するように海外居住者に奨励している。

#### 14. 2013年度、GDP成長率6.5%以下に減速か

アジア開発銀行は、「バングラデシュの今年度の国民総生産の成長は、世界的財政危機と本国での政治混乱により5.7%とやや下がってしまった。しかし、バングラデシュは南アジアの国々の中で、平均的な成長率を保つことができるであろう。バングラデシュ政府は今年度のGDP成長率7.2%を目標にしていたが、国内外の経済不景気を反映して6.5%に減速すると見られている。経済活動が不活発になり2013年度のサービス業の成長は6%に減速すると見られているが、全体的な需要が徐々に回復し、2014年度には少なくとも6.1%に拡大するであろうと予想されている。反面、成長が下がっていくリスクも予想されている。欧米の景気が予想ラインよりも、もっと弱くなる可能性があり、それは直接的にバングラデシュからの輸出に影響するであろう。もうひとつのリスクはもし政治がこれ以上混乱して経済活動を著しく中断させるならば、国家予算も弱くなる可能性がある」と予測している。

#### 15. バングラデシュ観光をアピール

民間航空・観光大臣 M.ファルク・カンは、「政府は観光旅行者用の車、スポーツ用品を含め様々な観光設備に対して次の国家予算で観光産業の成長を助長するために税金を削減することを計画している。バングラデシュは既に到着ビザを導入している。そうすれば外国観光客がバングラデシュに来やすくなり、地元観光事業もやりやすくなる」と、ボンゴ

ボンドゥー国際会議所(BICC)で行なわれている民族フェスティバルの開会式で述べた。 Bangladesh 観光委員会 (BTB) と全国観光組織は、ボンゴボンドゥー国際会議所で、国内の豊かな伝統と遺産を、地元と海外の人々に紹介し観光事業を推進させようと民族フェスティバルを組織した。大臣は、「コックスバザール空港も改良し国際観光地として国内の最も魅力的な観光地にしようとしている」と語った。

#### **16. ダッカ・チッタゴン間、新高速道路建設契約**

Bangladesh はアジア開発銀行とダッカーチッタゴン高速道路建設のための 1 千万ドルの契約を交わした。新しい高速道路は、既存の 250km のダッカーチッタゴン・ハイウエーの替わりになるものになる。高速道路はアジアとヨーロッパを結ぶ 141,000km のアジア高速道路ネットに繋がる予定である。

以上